

**委託事業実施内容報告書**  
**平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【地域日本語教育実践プログラム(B)】**

**実施内容報告書**

団体名: 特定非営利活動法人にほんご豊岡あいうえお

**1. 事業の概要**

事業名称	多文化共生のまちづくり「あいうえお子育てネット～但馬をつなぐ～」
事業の目的	但馬地域に在住している外国人にルーツを持つ母親と子どもの日本語教育を支援し、親子が安心して暮らしていける地域における日本語教育を推進する。外国にルーツを持つ子どもの教育や日本語の支援の必要性を行政、教育現場、地域住民に理解してもらい、日本語教育を推進する。更に、但馬地域3市2町の在住外国人担当課と日本語支援団体のネットワーク(平成29年度文化庁委託事業)を活用し、情報や課題を共有し、より良い教育の提供と支援体制の構築を図る。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	但馬地域には約1,300人の外国人が暮らしている。近年、特にアジア圏出身の女性が増え、それに伴い外国にルーツを持つ子どもの数が増えている。広い地域に散住しているため日本語教育を受ける機会に恵まれない人が大勢いる。日本語が十分でないまま子育てをしている母親が多く、当法人の生活相談窓口には、子育てに関する多くの悩みが寄せられている。また、学校、病院、保健センター等から通訳やサポーターの依頼が寄せられることが増えてきた。しかし、遠方からの相談や依頼の場合、当法人だけでは十分に対応できないことがあり、どこに住んでいても必要な支援が受けられるようにすることが大きな課題である。平成27年度には但馬地域3市2町に日本語教室が開設されたが、お互いの教室の連携がまだ十分とは言えない。平成29年度文化庁委託事業で全地域の日本語教室を紹介する冊子の作成、教室間のネットワークづくりを行った結果、それぞれの代表が顔を合わせ、情報や課題が共有できるようになった。しかし、ネットワークの枠組みが構築された段階であり、各日本語教室のブラッシュアップや課題解決のための取組みなどには至っていなかったため、引き続き平成30年度も、ネットワークをどう活かし、但馬地域における日本語教育をどのように推進していくのかについて、意見を出し合った。また、外国にルーツを持つ母親の子育てや子どもの教育を地域全体で支援していくことができるよう日本語支援団体だけでなく、行政、教育現場、地域住民に多文化共生について理解してもらうためのセミナーを開催した。平成29年度文化庁委託事業において但馬地域3市2町の在住外国人担当課が当事業の運営委員に加わり、日本語教室や支援の必要性について話し合い、地域の課題も見えてきた。平成30年度はそれらの課題解決や支援体制の構築に向けて何が必要かを考え、行政、学校、地域住民、日本語教室の連携を強化し、但馬地域全体で子育て支援と子どもの教育支援及び日本語教育支援の推進を図った。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	1.子育てや学校の言葉を学ぶ日本語教室(週1回2時間) 子育てをしている母親を対象に日本語教室を実施した。学校や地域の配布物を読んで理解し、行事などに積極的に関わったり、連絡帳等が書けるように漢字を学んだ。 2.但馬地域における日本語教育支援ネットワーク体制整備 但馬地域3市2町にある日本語教室の代表が集まるたじま多文化ネットワーク会議を年に2回開催し、地域の課題を解決する方法、教室運営、ボランティア養成等について意見交換をした。また、それぞれの日本語教室を紹介するたじま多文化共生マップ(但馬地域の日本語教室)を、英語、中国語、ベトナム語、タガログ語、韓国語の5言語で作成し、各市町の外国人窓口や日本語教室に配布した。在住外国人に母語で日本語教室の存在を知ってもらい、学習希望者の増加に繋げた。 3.多文化共生のまちづくりのためのセミナー ①セミナー「やさしい日本語(防災)」講師:水野義道氏(京都工芸繊維大学教授) 日本語支援者、教職員、地域住民等を対象に、「やさしい日本語(防災)」セミナーを開催し、災害時に外国人住民に対して適切に対応できる体制整備に努めるとともに、減災・防災への意識を高めた。 行政職員の研修を兼ねて、豊岡市と共催で開催した。地域住民にも参加を呼びかけ、「やさしい日本語」や在住外国人に興味を持ってもらい、外国人支援への協力をお願いした。 ②セミナー「外国にルーツを持つ子どもの教育支援」講師:齋藤ひろみ氏(東京学芸大学教授) 「外国にルーツを持つ子どもの教育支援」セミナーを開催し、外国にルーツを持つ子ども教育支援の方法について学んだ。 豊岡市教育委員会に協力を仰ぎ、但馬地域すべてのこども園、小・中学校に教職員の参加を呼びかけた。実際に外国にルーツを持つ子どもの支援にあたっては先生方に実情を聞き、支援方法を考えた。地域住民に参加を呼びかけ、まち全体で見守っていけるよう日本語教育や多文化共生への理解を深めてもらった。 4.子どもの就学に必要な言葉を学ぶ教室 教育委員会と連携し、外国にルーツを持つ保護者が子どもの就学準備のために必要な日本語を学ぶ会を開催した。持ち物の名前や提出しなければならない書類やアンケートなどの読み書きを学んだ。日本の学校について学ぶことで、文化や習慣の違いによる誤解を防ぎ、学校生活を円滑に送れるようにした。
事業の実施期間	平成30年5月29日～平成31年3月20日(11ヵ月)

**2. 事業の実施体制**

**(1) 運営委員会**

**【運営委員】**

1	河本美代子	特定非営利活動法人にほんご豊岡あいうえお
2	岸田尚子	特定非営利活動法人にほんご豊岡あいうえお
3	渡辺スーザン	子ども多文化共生サポーター
4	稲垣萌	子ども多文化共生サポーター
5	大坂和代	豊岡市役所秘書広報課
6	中井亜希子	朝来市市長公室秘書広報課
7	片岡智紘	養父市企画総務部企画政策課
8	松井範好	香美町企画課
9	福井崇弘	新温泉町商工観光課
10	齋藤直紀	兵庫県但馬県民局地域政策室



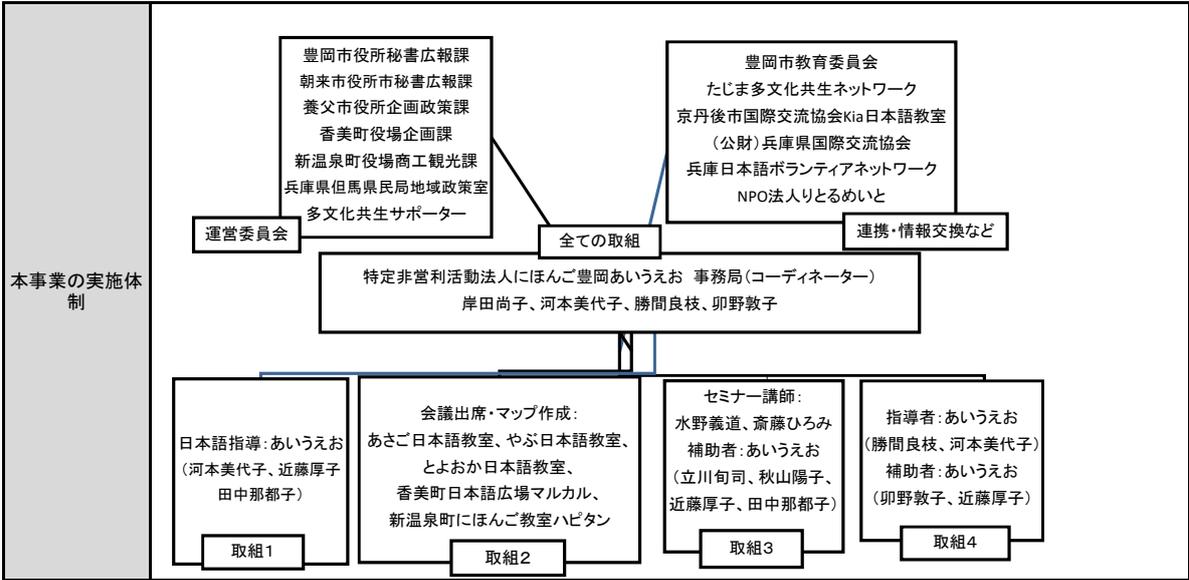
**【概要】**

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年6月4日(月) 10:00～12:00	2時間	あいうえお事務所	大坂和代、松井範好 福井崇弘、岸田尚子 河本美代子、勝間良枝 卯野敦子	取組1:学習者の募集方法について 取組2:多文化共生マップの内容と配布方法について 取組3:セミナーの内容、開催日時、周知方法、参加者の募集について 取組4:参加者の募集及び周知方法について
2	平成30年12月19日 (水) 10:00～12:00	2時間	あいうえお事務所	大坂和代、中井亜希子 松井範好、福井崇弘 齋藤直紀、岸田尚子 河本美代子、勝間良枝 卯野敦子	取組1:日本語教室の実施状況について 取組2:多文化共生マップ完成報告、配布先、設置場所などに関する協議 取組3:実施報告 取組4:参加者の募集と周知方法について
3	平成31年3月18日 (月) 10:00～12:00	2時間	あいうえお事務所	大坂和代、中井亜希子 松井範好、齋藤直紀 岸田尚子、河本美代子 勝間良枝	取組2:多文化共生マップの配布 取組4:実施報告 その他:各地域の外国人の現状把握、全取組の振り返り、課題に関する協議

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>●豊岡市役所、朝来市役所、養父市役所、香美町役場、新温泉町役場：運営会議で、それぞれの地域の在住外国人に関する情報を共有し、必要な支援について考えた。市町を越えて一緒に支援に当たることができる関係を築いた。日本語教室やセミナーの案内等、情報発信してもらった。</li> <li>●朝来市連合国際交流協会あさご日本語教室、養父市国際交流協会やぶ日本語教室、香美町日本語広場マルカル、新温泉町にほんご広場ハピタン、豊岡市国際交流協会とよおか日本語教室、京丹後市国際交流協会Kia日本語教室：日本語教室に関する情報を共有することで、日本語学習希望者に、より多くの勉強の機会を提供することができた。それぞれの教室で課題等を話し合い、解決を図った。</li> <li>●(公財)兵庫県国際交流協会、兵庫日本語ボランティアネットワーク、たじま多文化共生ネットワーク、兵庫県但馬県民局：セミナーの案内や情報の発信依頼及び成果物の周知をしてもらった。必要に応じて、専門家からのアドバイスをもらった。</li> </ul>
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制



3. 各取組の報告

＜取組1＞											
取組の名称	子育てや学校の言葉を学ぶ日本語教室										
取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本での子育ての疑問や不安、ストレスを軽減し、楽しく子育てに取り組めるようになる。</li> <li>●学校や地域からの配布物が自分で読め、学校や地域の行事などを理解し、積極的に参加できるようになる。</li> <li>●連絡帳やアンケートなどを自分で書けるようになり、先生や他の保護者、近隣の住民とのコミュニケーションが円滑に行えるようになる。</li> <li>●指導内容を教育委員会や学校現場にも知らせることで、日本語教育の必要性を理解してもらう。</li> </ul>										
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●週1回2時間のクラスを実施した。</li> <li>●参加者の入れ替わりがありレベルも異なるので、グループに分け、複数の支援者で指導にあたった。</li> <li>●実際に学校から子どもがもってきた手紙を、レリアアとして利用した。</li> <li>●ひらがな、カタカナ、漢字の読み書きに加え、手紙でよく使われる敬語表現や語彙、手紙のパターンなどを学んだ。</li> <li>●連絡帳やアンケートを書く練習をした。</li> <li>●先生や他の保護者とのコミュニケーションがスムーズになるように、会話の練習をした。</li> </ul>										
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備	母親の日本語力の向上により、学校や地域の行事、個別懇談などに積極的に参加できるようになった。母親が現場の先生や他の保護者ともコミュニケーションが取れるようになったことで、周囲の外国人保護者への関心が高まった。顔の見える関係を築くことで、外国人保護者の抱える問題が伝わりやすくなった。また、教育現場でも多文化共生支援の必要性をより強く感じてもらえるようになり、より良い支援体制の構築を促した。										
取組による日本語能力の向上	ひらがな、カタカナ、漢字の読み書きの力が向上した。自分で学校からの手紙を読んで、大まかな意味を理解できるようになった。連絡帳やアンケートに、自分の言いたいことを文章で書けるようになった。手紙の内容を理解し、学校行事に積極的に参加できるようになったことで、先生や他の保護者とのコミュニケーションをとる機会が増え、会話力が向上した。										
参加対象者	外国にルーツを持つ母親	参加者数 (内 外国人数)					15人(15人)				
広報及び募集方法	当法人の賛助会員及び学習者にチラシを発送した。市役所やショッピングセンターなど、人目につきやすい場所にチラシを設置、または掲示してもらった。当法人の学習者に、口コミで案内してもらった。ホームページ、フェイスブックでクラスの様子を紹介した。日本語教室の様子を紹介したコラムを紙面に掲載してもらった。										
開催時間数	総時間80時間					内訳：2時間×40回					
主な連携・協働先	豊岡市、豊岡市教育委員会、あさご日本語教室、やぶ日本語教室、とよおか日本語教室、香美町日本語広場マルカル、新温泉町にほんご広場ハピタン										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	5			2	2	1		2	2		
※該当する場合のみ ニュージーランド(1人)											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	平成30年5月31日(木) 13:30～15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「マイ弁当について」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子			
2	平成30年6月7日(木) 13:30～15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「囲碁・将棋教室の申し込み」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子			
3	平成30年6月14日(木) 13:30～15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「育成会野外活動のお知らせ」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子			
4	平成30年6月21日(木) 13:30～15:30	2	あいえお教室	6	学校の手紙 漢字学習	・「地区懇談会」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子			
5	平成30年6月28日(木) 13:30～15:30	2	あいえお教室	6	学校の手紙 漢字学習	・「夏休み前奉仕作業について」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子			
6	平成30年7月5日(木) 13:30～15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「イベントのお知らせ」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子			
7	平成30年7月12日(木) 13:30～15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「八条っ子の夏休み」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子			
8	平成30年7月19日(木) 13:30～15:30	2	あいえお教室	6	学校の手紙 漢字学習	・「自転車点検について」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子			
9	平成30年7月26日(木) 13:30～15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「家庭学習のすすめ」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子			
10	平成30年8月2日(木) 13:30～15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「夏休みイベントのチラシ」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子			
11	平成30年8月9日(木) 13:30～15:30	2	あいえお教室	9	学校の手紙 漢字学習	・「病院の問診票の書き方について」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子			
12	平成30年8月16日(木) 13:30～15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「子どもの名前や住所の書き方について」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子			
13	平成29年8月23日(木) 13:30～15:30	2	あいえお教室	7	学校の手紙 漢字学習	・「ATMの使い方」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子			
14	平成30年8月30日(木) 13:30～15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「夏休みの日記」の感想部分 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子			

15	平成30年9月6日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・身元引受人書類の書き方 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子
16	平成29年9月13日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「PTA演技種目参加のお願い」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子
17	平成30年9月20日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	5	作文を書く 漢字学習	・日本語発表会の作文 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子
18	平成29年9月27日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	5	作文を書く 漢字学習	・日本語発表会の作文 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子
19	平成30年10月4日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「マラソン前健康調査」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子
20	平成30年10月11日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「住宅、宅地調査票の記入について」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子
21	平成30年10月18日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・日本語発表会スピーチ練習 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子
22	平成30年10月25日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・日本語発表会スピーチ練習 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子
23	平成30年11月1日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・日本語発表会スピーチ練習 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子
24	平成30年11月8日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・日本語発表会スピーチ練習 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子
25	平成30年11月15日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「オープンスクールのお知らせ」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子
26	平成30年11月22日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「育成会のお楽しみ会申込書」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子
27	平成30年11月29日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・交通ルールに関する言葉 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子
28	平成30年12月6日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・交通ルールに関する言葉 ・年賀状を書く練習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子
29	平成30年12月13日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・年賀状の書き方 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子
30	平成30年12月20日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・交通ルールに関する言葉 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子
31	平成31年1月10日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・交通ルールに関する言葉 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子
32	平成31年1月17日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・書初め ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子
33	平成31年1月24日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・交通ルールに関する言葉 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子
34	平成31年1月31日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・「節分について」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子
35	平成31年2月7日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・「給食だより」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子
36	平成31年2月14日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・「バレンタインデーの話」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子
37	平成31年2月21日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・交通ルールに関する言葉 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子
38	平成31年2月28日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・交通ルールに関する言葉 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	近藤厚子 河本美代子	田中那都子
39	平成31年3月7日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・「中学校の入学案内」 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子
40	平成31年3月14日(木) 13:30~15:30	2	あいえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・交通ルールに関する言葉 ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習	田中那都子 河本美代子	近藤厚子

## (1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

### ○取組事例①

【第4回:平成30年6月21日】参加者6人(出身国:ペルー、中国、フィリピン、ニュージーランド)

- 1:30～2:30 学校からの配布物「地区懇談会について」を読んで、漢字の読み方や語彙を確認した。学習者から、自由参加の場合、参加したほうがいいのかどうか分からないという声があった。
- 2:30～2:40 休憩(写真はペルー出身女性(赤ちゃん生後2か月)と中国出身女性(妊娠8ヶ月)のおしゃべりの様子)
- 2:40～3:30 それぞれの希望に応じた漢字学習を行った。(使用テキスト:かんじだいすき3年生、総まとめ問題集N3、生活漢字など) 読み書きを中心としたクラスのため、興味を持ったニュージーランドの高校生が、短期留学期間中に参加し、読み書きを学んだ。



### ○取組事例②

【第36回:平成31年2月14日】参加者4人(出身国:中国、ベトナム、フィリピン)

- 1:30～3:15 3つのグループに分かれて学習した。
- グループ1:かんじだいすき3年生  
グループ2:総まとめ問題集N3語彙  
グループ3:みんなの日本語Ⅱ復習
- 3:15～3:30 全員でフリートーク:「日本のバレンタインデー」について  
参加者の出身国のバレンタインの様子を聞いた。  
「日本のバレンタインは女性が男性にチョコレートをあげるの、あまり面白くない」「ベトナムはいつも女性がもらう」「中国も女性がもらう」など、話が弾んだ。



## (2) 目標の達成状況・成果

- 漢字学習が進むことで、積極的に学校からの手紙を読もうとする姿勢が見られた。
- 母親の日本語力の向上により、先生や他の日本人保護者とのコミュニケーションがスムーズになった。
- 学校からの配布物を定期的に読むことで、学校の年間行事への理解が深まった。
- 学校からの配布物を通して、学校行事への興味関心が高まり、PTAや地域の活動に参加する人が増えた。
- 学習者同士の交流が進み、子育てに関する情報交換や悩み相談などを行うことができた。
- 日本語が上達し、簡単な通訳・翻訳の仕事や運転免許の取得につながった。
- アンケートより(原文のまま)  
「このクラスに参加してから、友達できました。子どものこともいろいろ教えてくれている。安心しました。」  
「この学校の存在、外国人にいいことと思います。このクラスがあつたら本当に便利です。」

## (3) 今後の改善点について

- 妊婦の場合、出産すると通ってくることができなくなる現状があるが、むしろ子育てについてわからないことや相談したいことは産後のほうが多い。そのため、クラスに来られない人にも継続的に支援が続けられる工夫が必要である。
- 2～3名の支援者で指導にあたっているが、それぞれレベルや教材が違い、個々で学習を進めているため、手が足りない時があった。更なるボランティアの確保に取り組みたい。
- 仕事や介護などの都合により、学習が続けられない人がいた。勉強したいが遠方のため通ってこれない人もいた。開催日時の工夫や家族の理解と協力などが今後の課題である。

＜取組2＞										
取組の名称	但馬地域における日本語教育支援ネットワーク体制整備									
取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●但馬地域3市2町にある日本語教室のネットワーク(平成29年度文化庁委託事業)の活動を維持し、代表が定期的に顔を合わせる場を提供する。</li> <li>●日本語指導、教室運営の方法などについて意見を交換し、それぞれの地域の抱えている問題を共有、解決の方法を探るなど、それぞれの日本語教室のブラッシュアップを図る。</li> <li>●但馬地域の日本語教室の実施場所や活動内容を紹介する「たじま多文化共生マップ」を多言語で作成し、より多くの外国人に日本語教室の存在を知ってもらう。</li> </ul>									
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「たじま多文化共生ネットワーク」会議(年2回)を開催し、情報を共有した。</li> <li>●ネットワークを通じて情報を発信し、セミナー等への参加を呼びかけ、それぞれの教室のブラッシュアップを図った。</li> <li>●但馬地域における日本語教室の活動について紹介する「たじま多文化共生マップ」を多言語(やさしい日本語・英語・中国語・ベトナム語・タガログ語・韓国語)で作成した。作成した「たじま多文化共生マップ」は各教室や市の窓口などに置き、新しく但馬地域にきた人や日本語学習を希望する人へ配布を依頼した。</li> </ul>									
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備	地域の日本語教室のネットワークを通じ、それぞれの地域の情報や教室の実施状況などを互いに把握し、但馬のどの地域でも学習者の支援が適切に行われる体制整備に取り組んだ。日本語支援団体と行政機関をつなぎ、互いに情報を発信・共有し、問題の解決に取り組める関係を構築した。									
取組による日本語能力の向上										
参加対象者	日本語教育支援者、行政職員他	参加者数 (内 外国人数)		14人(5人)						
広報及び募集方法	個別に開催通知の発送									
開催時間数	総時間4時間	内訳:2時間×2回								
主な連携・協働先	あさご日本語教室、やぶ日本語教室、とよおか日本語教室、香美町日本語広場マルカル、新温泉町にほんご広場ハピタン									
受講者の出身 (ルーツ)・国別 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1	1		1					1	9
※該当する場合のみ アメリカ(1人)										
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年7月16日(月) 10:00~12:00	2	あいうえお事務所	6	第1回 たじま多文化共生 ネットワーク会議	・あいうえお子育てネットの全取組について ・多文化共生マップの内容についての意見 交換 ・各地域の現状報告など		河本美代子、岸田尚子、勝間良枝、 卯野敦子、山田稔、小田垣真弓		
2	平成31年1月9日(水) 10:00~12:00	2	あいうえお事務所	9	第2回 たじま多文化共生 ネットワーク会議	・あいうえお子育てネットの全取組の進捗状 況 ・各地域の現状報告 ・多文化共生マップ配布		河本美代子、岸田尚子、勝間良枝、 卯野敦子、山田稔、小田垣真弓、 本多秋香、西村美幸、稲葉康介		

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回:平成30年7月16日(月曜日)午前10時~正午】  
 ・自己紹介と各教室の活動状況について情報と課題を共有した。  
 (課題例:ボランティアの不足、子どもへの支援、日本語学習が継続しにくい学習者への対応、技能実習生の増加他)  
 ・日本語教室間のネットワークの活用方法について、意見を交換した。  
 ・平成30年度のあいうえお子育てネットの活動について説明し、質疑応答をした。  
 ・子どもの教育支援に関する多文化共生セミナーについて、開催案内と周知の依頼をした。  
 ・たじま多文化共生マップ多言語版の内容や構成について意見を交換し、同意のもと、必要な原稿や写真の提供を依頼した。

○取組事例②

【第2回:平成31年1月9日(水)午前10時~正午】  
 ・平成30年度の子育てネットの活動報告及び質疑応答、意見交換をした。  
 ・多文化共生マップ多言語版について説明を行った後、配布先を検討した。  
 ・取組4の内容を説明し、各教室の学習者への呼びかけを依頼した。



(2) 目標の達成状況・成果

<ネットワークについて>

・たじま多文化共生ネットワークができたことで、但馬内の日本語教室の情報の共有が進み、課題解決に向けて協働することができた。

例1) 日本語ボランティアのマッチング: 朝来地域に日本語学習が必要な子どもがいたが、あさご日本語教室の支援者に支援可能な人がいなかったため、あいうえお日本語教室のボランティアが支援をすることになった。

例2) あさご日本語教室研修会: あさご日本語教室より日本語指導方法について学びたいとの要望があり、あいうえお日本語教室の支援者が研修会(全3回)の講師を務めた。

<たじま多文共生マップについて>

・各市町の外国人担当課や市民課、社協などに、多文化共生マップを配布し、置いてもらうよう依頼した。

・多文化共生マップの記事が紙面で紹介され、多くの地域住民に外国人支援の必要性を知ってもらうことができた。

・多文化共生マップを見た地域住民から「このマップを初めて見て、地域に外国人が大勢いることがわかった」「外国の人と交流する機会があれば、ぜひ参加してみたい」といった声が多数あった。

(3) 今後の改善点について

・各地域の日本語教室の授業や行事などがあるため、会議の日程調整が難しかった。早めの日程調整を心掛けたい。

・会議で挙げられた課題の解決に向けて、日ごろから連絡を取り合い、協働できる関係を維持していく必要がある。

・日本語教室の課題を行政や学校、地域などと共有できる仕組みづくりの必要性を呼び掛けていきたい。

・技能実習生を受け入れている企業などに多文化共生マップを配布できるようにしたい。

＜取組3＞											
取組の名称	多文化共生のまちづくりのためのセミナー										
取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域住民、行政職員、教職員、日本語支援者などが、在住外国人の現状を把握し、「やさしい日本語」に関する知識を得ることで、今後のより良い支援につなげる。</li> <li>●但馬地域の日本語支援者や教育委員会と連携して、外国にルーツを持つ子どもの日本語教育の支援についての理解を深める機会を提供する。</li> </ul>										
取組の内容	<p>①セミナー「やさしい日本語(防災)」講師:水野義道氏(京都工芸繊維大学教授)          内容:「やさしい日本語(防災)」セミナーを開催し、災害時に対応できる体制整備に努めた。また、減災・防災に対する参加者の意識が高まった。          対象:日本語支援者、教職員、行政職員、地域住民等          行政職員の研修を兼ねて、豊岡市と共催で開催した。          区長をはじめ、地域住民にも参加を呼びかけた。</p> <p>②セミナー「外国にルーツを持つ子どもの教育支援」講師:齋藤ひろみ氏(東京学芸大学教授)          内容:「外国にルーツを持つ子どもの教育支援」セミナーを開催し、外国にルーツを持つ子ども教育支援の方法について学んだ。          対象:日本語支援者、教職員、行政職員、地域住民等          豊岡市教育委員会と連携し、豊岡市全ての幼保・こども園と小中学校の教職員に参加を呼びかけた。          外国にルーツを持つ子どもを指導している先生に実情を聞き、支援方法などについて意見を交換した。</p>										
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備	やさしい日本語を学ぶことで、災害時だけでなく、日頃から外国人とスムーズにコミュニケーションがとれるような体制整備に努めた。外国にルーツを持つ子どもの教育についての知識を深めてもらい、日ごろから地域住民が外国にルーツを持つひとを見守っていくよう努めてもらった。学校関係者に参加してもらい、連携・協力ができる関係を築いた。										
取組による日本語能力の向上											
参加対象者	日本語支援者、教職員、行政職員、地域住民他						参加者数 (内 外国人数)		104人(7人)		
広報及び募集方法	当法人の賛助会員にチラシを送付した。ホームページ、フェイスブックで告知した。市役所やショッピングセンターなど、人目につきやすい場所にチラシを置き、掲示してもらった。セミナー①は豊岡市内の全区長、警察、消防署等にもチラシを送付した。セミナー②は豊岡市内全ての幼保・こども園と小中学校にチラシを配布し、園長・校長に電話でも参加を呼びかけた。										
開催時間数	総時間6時間						内訳:3時間×2回				
主な連携・協働先	各市町、豊岡市教育委員会、あさご日本語教室、やぶ日本語教室、とよおか日本語教室、香美町日本語広場マルカル、新温泉町にほんご広場ハピタン										
受講者の出身 (ルーツ)・国別 内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	1								3		
※該当する場合のみ	台湾(3人)										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	平成30年7月30日(月) 13:30~16:30	3	豊岡市役所	64	多文化共生セミナー	やさしい日本語セミナー「防災」	水野義道				
2	平成30年8月27日(月) 13:30~16:30	3	豊岡市民 プラザ	40	多文化共生セミナー	外国にルーツを持つ子どもの教育支援について	齋藤ひろみ				

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【平成30年7月30日(月)午後1時30分~午後4時30分】

「災害時の外国人のための「やさしい日本語」講師:京都工芸繊維大学教授 水野義道氏

・やさしい日本語が広く使用されるようになった経緯やその目的、実際の使用例やその効果などについて、具体例を交えて話を聞いた。

・やさしい日本語の作り方のコツを学び、グループに分かれて、災害時によく使う案内文(緊急コメント)をやさしい日本語に変換するワークショップを行った。

・各グループで考えたやさしい日本語の文を発表し、意見交換をした。



## ○取組事例②

【平成30年8月27日(月)午後1時30分～午後4時30分】

「外国にルーツをもつ子どもの教育について～ライフコースをまなざし、学びを結ぶ～」講師：東京学芸大学教授 齋藤ひろみ氏

・外国にルーツをもつ子どもの現状と課題、教育の役割、文化、アイデンティティなどについて、具体例を交えて話を聞いた。

・子どものライフコースについて、事例を見ながら問題点などを考えた。

・学習言語と生活言語の違いなどを踏まえ、具体的に学校で何をどのように教えていくのか、日本語の文型の指導方法、作文指導例などについて意見を出し合った。



## (2) 目標の達成状況・成果

セミナー①(詳しいアンケート内容については別紙参照)

・行政職員の研修を兼ねて、豊岡市と共催した。

・「日々の仕事に取り入れていきたい」「豊岡市のこれからの施策の参考にしたい」という意見があった。

・やさしい日本語は外国にルーツを持つ人をはじめ、子どもや高齢者にも有効であることを理解してもらうことができた。

・市職員、市議会議員、日本語支援者、区長、民生委員、防災士など様々な立場の人が一堂に会し、日本語支援だけでなく、豊岡市のこれからの多文化共生のまちづくりについて考える機会になった。

・外国人の立場から見たやさしい日本語の感想や意見を聞くことができた。

セミナー②

・豊岡市教育委員会の協力により豊岡市内のすべての幼保・こども園、小・中学校に案内を配布し参加を呼びかけ、教職員の参加を得た。

・外国にルーツを持つ子どもを指導している先生から、実情を聞くことができた。

・子どもの支援についての理解を深めることで、まち全体で子どもを見守っていかなければならないという地域住民の意識化につながった。

・外国にルーツを持つ子どもの教育では、指導者の役割分担(生活面、就学面、学習面)が大切で、多様な機関との連携のもとに行うものであるということがわかった。

・外国にルーツを持つ子どもの日本語力と学力向上のためにどのような授業をするかについて、その方法及び留意点を学んだ。

・どちらのセミナーも地域住民の参加があり、アンケート結果ではほとんどの人が「理解できた」、または「大変理解できた」と答えており、満足度の高い内容となった。

## (3) 今後の改善点について

・アンケート結果より「やさしい日本語」について「ほとんど知らない」「興味はあるがよくわからない人が多い」ということがわかった。これからも継続してやさしい日本語セミナーを開催する必要性を感じた。

・教育委員会と連携し、できるだけ多くの教職員が参加できるよう日程を調整し、周知を図りたい。

・外国にルーツを持つ子どもの教育は、学ぶべき内容が多く、限られた時間内で消化するのは難しかった。今後も継続して、セミナーを開催していきたい。

・外国にルーツを持つ子どもへの支援の必要性や重要性が広く認識されるよう、日ごろから教育現場と顔の見える関係を築いていかなければならない。

＜取組4＞										
取組の名称	子どもの就学に必要な言葉を学ぶ教室									
取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育委員会と連携し、外国にルーツを持つ保護者が子どもの就学準備に必要な日本語を学ぶ。</li> <li>●持ち物の名前、提出書類、アンケート等の読み書きを学ぶ。</li> <li>●母国との文化や習慣の違いを知ること、学校生活を円滑に送れるようにする。</li> </ul>									
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校と中学校の2つのグループに分かれ、入学に必要な日本語を学んだ。</li> <li>●母語で書かれている翻訳資料を利用し、学校の年間スケジュール、行事、給食、登下校など、日本の学校についての基本的な知識を説明した。</li> <li>●入学前の準備物についてレリアア使って説明し、就学準備に必要な日本語を覚えてもらった。</li> <li>●それぞれの学校の入学の手引を一緒に読み、内容を確認した。</li> <li>●外国にルーツを持つ子どもは、手遊びや折り紙などの遊びを通して、日本語力をチェックした。</li> </ul>									
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備	国によって学校制度には大きな違いがあり、外国人には日本人と違った視点、内容での説明が必要であること、入学後も学校生活において様々な支援や日本語教育の必要性があることを教育現場に知ってもらい、当法人と連携して支援にあたる体制整備を進めた。									
取組による日本語能力の向上	学校行事、教育用語、持ち物、あいさつなどの言葉、連絡の仕方などを学んだ。									
参加対象者	外国にルーツを持つ母親とその子ども及び家族	参加者数 (内 外国人数)	21人(12人)							
広報及び募集方法	当法人の賛助会員及び対象となる学習者にチラシを発送した。市役所やショッピングセンターなど、人目につきやすい場所にチラシを設置、または掲示してもらった。当法人の学習者にロコミで案内してもらった。									
開催時間数	総時間3時間	内訳:3時間×1回								
主な連携・協働先	各市町、豊岡市教育委員会、あさご日本語教室、やぶ日本語教室、とよおか日本語教室、香美町日本語広場マルカル、新温泉町にほんご広場ハピタン									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
※該当する場合のみ	6			1					5	7
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成31年1月27日(日) 13:30~16:30	3	あいうえお教室	21	就学に必要な言葉を学ぶ教室	日本の学校の基礎知識を学ぶ。 就学に必要な持ち物の名前などを覚える。	河本美代子 勝間良枝	金子喜代美 卯野敦子 近藤厚子		

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【平成31年1月27日(日)午後1時30分~午後4時30分】  
 スライドと翻訳資料を見ながら、日本の学校についての基礎知識を学んだ。  
 準備物のリストとレリアアを見ながら、入学準備に必要な言葉を覚えた。  
 子どもが小学生になる保護者と、中学生になる保護者に分かれ、学校生活について質疑応答した。  
 中学生の保護者には但馬地域の高校進学について、簡単に紹介した。  
 説明会終了後の茶話会では、子育ての不安や悩みなどについて話し合った。



## (2) 目標の達成状況・成果

・レリアと翻訳資料を利用し、購入場所、名前の書き方など、できるだけ具体的に情報を提供することで、入学準備がスムーズにできるようになった。

・学校からのアンケートや提出物などの内容を一緒に確認し、締切までにきちんと提出することができた。

・参加者の中には、新1年生になる子どもの親だけでなく、呼び寄せで小学校に編入した高学年の子どもを持つ母親や中学校に入学する子どもを持つ母親もいた。

・去年に続き参加してくれた人から、就学前に聞いたときはまだ具体的にイメージできないこともあったが、実際に子どもが就学してから聞くと、より説明がわかりやすかったという声があった。

・保護者と子どもと一緒に参加したことで、親子間で情報を共有することができ、コミュニケーションを深めることができた。

・参加した日本人男性から「昔と違っていることが多く、日本人でも全然わからないので、聞いてよかった」という声があった。

・中学生の子どもの母親から高校進学について教えてほしいという声があったため、地域に即した具体的な内容の資料を作ったところ、大変好評であった。

## (3) 今後の改善点について

・対象者の数や所在地を把握する方法がないので、日本語教室に参加していない人への周知が難しい。教育委員会などと連携し、全ての人に案内が行き届くような仕組みづくりを進めていきたい。

・呼寄せの子どもの場合、子どもの来日時期や年齢が様々であることから、内容も参加者に合わせて柔軟に対応できるよう工夫する。

・子どもの進学のために理解しておくべき日本語は多いが、言葉が難しく、母親の日本語力によっては、十分理解することができないため、より詳しい翻訳資料の作成を検討したい。

・外国人保護者は日本語がわからないため、日本人保護者に比べ、学校行事などへの参加が少ない。しかし、そのことを自分に関心がないからだと感じる子どもがいるので、外国人保護者に情報を提供し、参加を促す。

#### 4. 事業に対する評価について

##### (1) 事業の目的・目標

但馬地域に在住している外国にルーツを持つ母親と子どもの日本語教育を支援し、親子が安心して暮らしていけるよう、日本語教育を推進する。外国にルーツを持つ子どもの教育や日本語の支援の必要性を行政、教育現場、地域住民に理解してもらい、日本語教育を推進する。更に、但馬地域3市2町の在住外国人担当課と日本語支援団体のネットワーク(平成29年度文化庁委託事業)を活用し、情報や課題を共有し、より良い教育の提供と支援体制の構築を図る。

##### (2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- ・母親クラスに参加する学習者から「子育てについてわからないことを何でも聞ける場所があるというのは、とてもありがたい」また「出産後は日本語の勉強には行けないが、子育てに関して教えてほしい」などの声が寄せられた。
- ・子育てネットの取組をホームページやSNSで発信することで、外国人への支援に興味を持ってくれる人が増えた。
- ・たじま多文化共生ネットワーク会議での意見を運営委員会で共有することにより、今後の受入態勢の拡充に向け、より具体的な提案や意見交換をすることができた。
- ・但馬地域の全ての教室がつながることで、わからないことを相談したり、困った時には助け合える安心感が生まれ、ネットワークの必要性を再認識することができた。
- ・ネットワークを通じ、他地域の研修会やセミナーに参加し合うことで、日本語教室のブラッシュアップを図ることができた。
- ・多文化共生セミナーには日本語支援関係者だけでなく、行政、学校、地域などの様々な立場の人が参加し、在住外国人の存在を認識し、支援の必要性を理解することができた。セミナーのアンケート結果では、大部分の人が「非常に理解できた」「大変有益であった」と回答している。

##### (3) 地域との関係者との連携による効果、成果等

- ・豊岡市教育委員会:豊岡市内全ての幼保、小・中学校に、セミナーや日本語教室について周知した。
- ・朝来市教育委員会:たじま多文化共生ネットワークを通じ、外国にルーツを持つ子どもの学習支援への協力につながった。
- ・地域住民:「やさしい日本語セミナー(防災)」に参加した地域住民を通して、技能実習生を受け入れている企業とつながった。
- ・教職員:「多文化共生セミナー」に参加した教職員を通して、今後の子どもの支援において協力し合える関係ができた。

##### (4) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

(周知・広報)

- ・全ての取組:チラシを市役所や日本語支援団体、ショッピングセンターなどの人目につきやすい場所に置いたり、掲示してもらったりした。
- ・取組1、取組3:チラシを当法人の賛助会員に郵送した。
- ・取組3:案内を豊岡市教育委員会を通じて、豊岡市内すべての幼保・子ども園、小中学校に配布した。
- ・取組3:セミナー開催について、新聞で告知してもらった。
- ・取組4:案内を豊岡市教育委員会を通じて、全ての幼保・子ども園に配布した。

(事業成果の発信)

- ・すべての取り組みについて、当法人のホームページ及びfacebookで案内及びイベント開催後に実施内容の報告をしている。
- ・取組2の成果物である「たじま多文化共生マップ」を但馬地域の日本語教室及び外国人担当課、市民課に置くなどして、より多くの在住外国人に届くようにした。
- ・豊岡市の記者発表で「たじま多文化共生マップ」作成を報告し、メディアで紹介してもらった。

##### (5) 改善点、今後の課題について

・日本語支援団体や行政職員などに、少しずつ多文化共生への理解が広がっているように感じられるが、まだまだ地域住民の理解は進んでいないように思う。これからも広く情報発信をし、支援者、行政、地域住民が当たり前のこととして外国人を受け入れ、そして、但馬地域全体で在住外国人との共生を進めていく必要がある。そのための情報発信や交流、居場所づくりなどの機会を提供するとともに、今後さらに多様化していく外国人のために、柔軟な姿勢で支援を続けていく体制整備を進めていかなければならない。